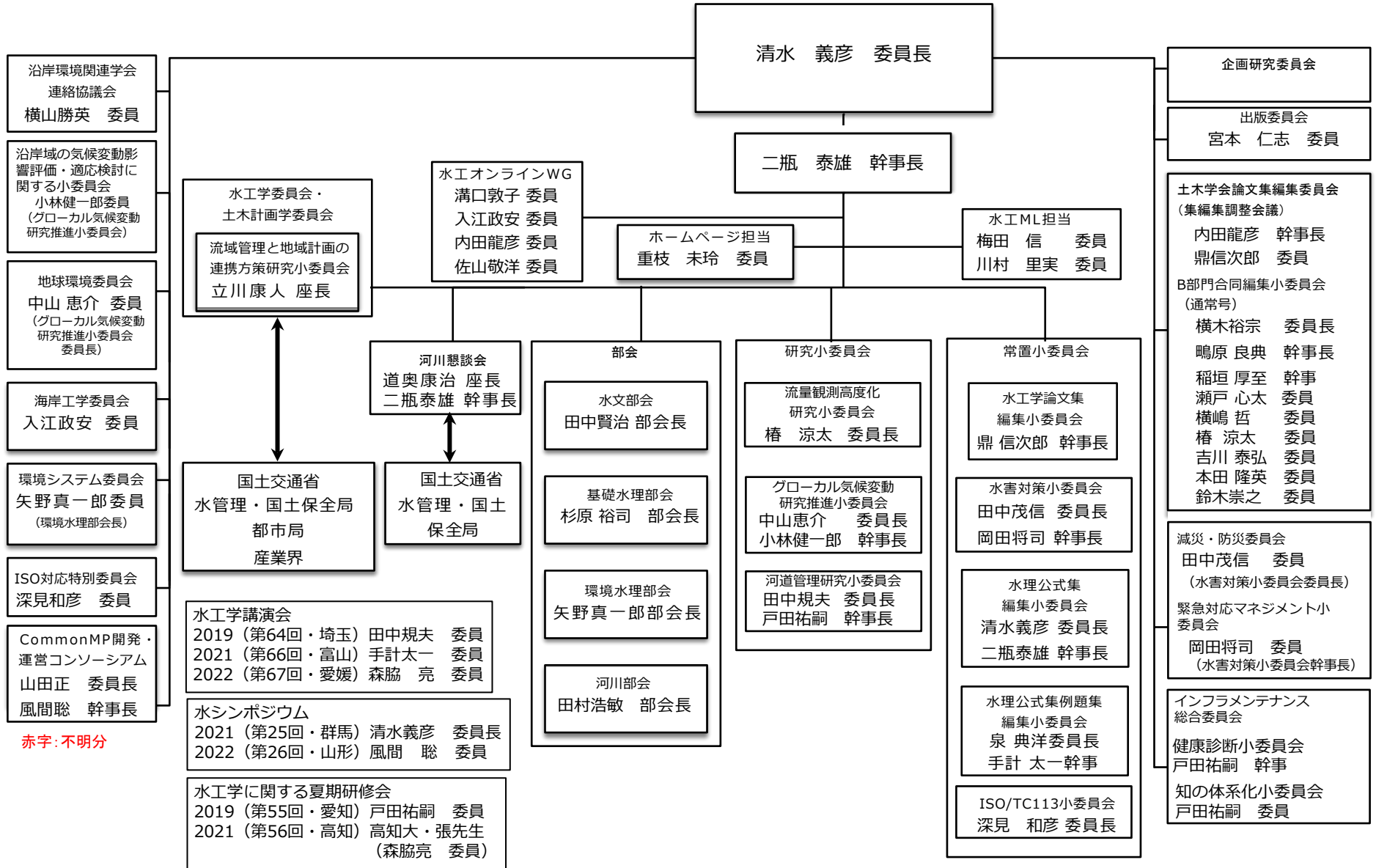


水工学委員会活動の振り返りと自身の研究の歩み

水工学委員会幹事長
二瓶泰雄（東京理科大学）

一般の方にはあまり知られていない水工学委員会や部会・小委員会について紹介し、特に2019-2020年における委員会活動の振り返りと反省を行います。また、自身の研究活動として、水工学委員会と絡めて行った内容について簡単に紹介します

2019-2020 水工学委員会 (2020/11/4現在)



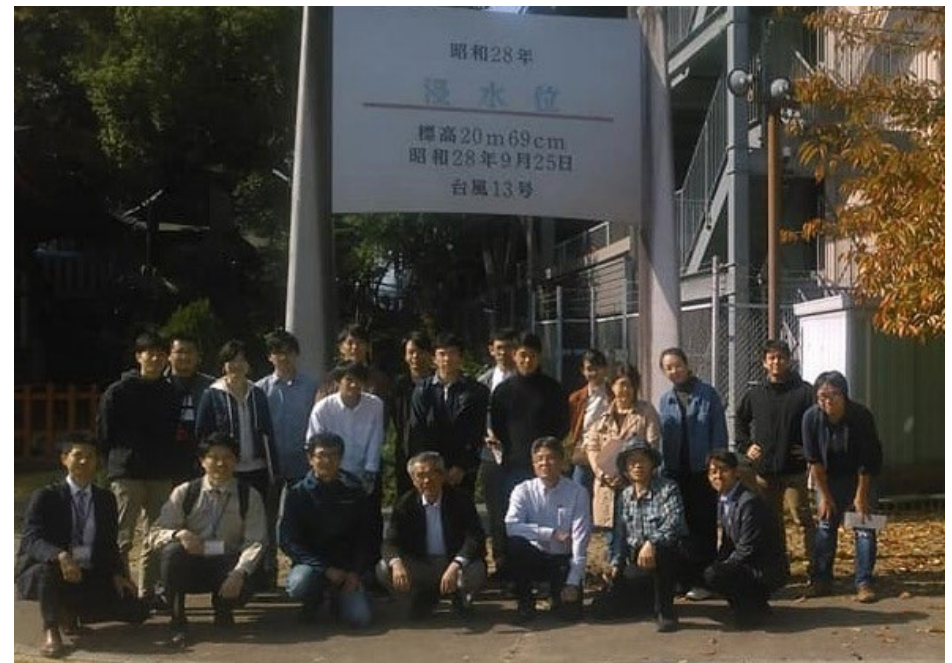
水文部会報告

構成

部会長 田中賢治(京都大)
副部会長 鼎信次郎(東工大)
部会員 37名?

R1-2年度の主な活動

- 水文研究集会@由良川(20名参加) 2019年10月31日~11月1日
- 水文部会
2019年11月5日 13時~14時 (@会議室702)
2020年11月4-6日
- 水シンポジウム2021in群馬
企画部会: 田中賢治、平林由紀子、芳村圭
第1分科会 テーマ: 防災・減災(治水・利水)



基礎水理部会報告

構成

部会長 杉原裕司(九州大)
副部会長 田中規夫(埼玉大)
幹事 山上路生(京都大)
部会員 25名
アドバイザー 11名



R1-2年度の主な活動

- 水シンポジウム2019 in しが 第1分科会：8/22に滋賀県大津市にて開催.
- 基礎水理部会河川見学会2019@黒部川・常願寺(7名参加、10/27-29)
- 基礎水理シンポジウム@土木学会講堂(R3/3/16開催, **505名参加**)

<WG>

- 流木力学に関するWG(リーダー:木村一郎先生):6/4-5@富山市
- 流砂・河床変動に関する若手WG(リーダー:音田慎一郎先生):
第5-7回流砂・河床変動若手勉強会を開催.
- 数値解析支援ツールに関するWG(リーダー:井上卓也先生):2019年度前期はIRICの講習を3回実施した(会場:大阪、東京、ハノイ).

河川部会報告

構成

部会長 田村浩敏(建設技術研究所)
副部会長 諏訪義雄(国土政策総合研究所)
同 内田龍彦(広島大学大学院)
部会員 総計 34名

➤ 第1回河川部会 2020.10.1(WEB会議)

・2020年6月に予定されていた「河川技術に関するシンポジウム」は中止。

・次回の「河川技術に関するシンポジウム」は以下のとおり開催する。

2021年6月10日(木)～6月11日(金)

オンライン開催予定

オーガナイズドセッションとポスターセッションの方法は担当WGで検討中

・河川技術論文集の論文募集は、概ね例年どおりのスケジュールで実施予定。

2020年12月上旬 会告

2021年1月28日 要旨投稿×切

2021年4月2日 本論文投稿×切

➤ 河川技術論文賞

・第26巻河川技術論文集(2020年6月)の論文等のなかから選考

・第一次審査において候補論文4編が選定され、水工学委員長の承認済み。

・査読審査員を割り当てて、第二次審査を開始する予定。

・2021年6月の河川シンポジウムにおいて受賞者を発表予定。

環境水理部会報告

構成

部会長 矢野真一郎(九州大)
副部会長 竹林洋史(京都大)
幹事 大槻順朗(土研自然共生センター)
新谷哲也(首都大)
部会員 29名 オブザーバー 20名



WG活動:

- ・温暖化適応WG(入江): 環境省推進費へ応募. 11/13オンラインでWG開催.
- ・流砂・植生動的マネージメントWG(竹林): 年度内にオンラインWGを予定.
- ・閉鎖性水域WG(新谷): 報告なし

研究集会2020(オンライン):

2021/1/15開催(212名参加)

部会:

11/6お昼休みにWEB会議で開催

水害対策小委員会報告

構成

小委員長 田中茂信(京都大)
幹事長 岡田将治(高知高専)
委員 20名
アドバイザー 9名
オブザーバー 11名



2018年11月河川災害シンポジウム@北海道大学

R2年度の活動

- 2020年7月： 2020年度第一回水害対策小委員会開催
- 2020年7月： 令和2年7月九州豪雨災害調査団の結成・活動のサポート
- 2020年10月： アドバイザーボードの設置
- 2020年11月： 河川災害シンポジウムの開催（オンライン）
- 2020年12月： 2020年度第二回水害対策小委員会開催(予定)

2020年度 水害調査団の立ち上げ

- ① 令和2年7月九州豪雨災害調査団
(団長: 大本照憲, 熊本大学教授)

河川観測高度化小委員会報告

構成

小委員長 椿涼太(名古屋大)

委員 6名



R2年度～の主な活動予定

- 流量観測Short-course @ IAHR-APD2020は過去の資料のアップロードのみで対応
- 現時点まで合同観測会・勉強会は未開催
- 合同観測会は来年5～6月の実施を企画中
- オブザーバー・委員を引き続き増員
- 論文集(河川観測の新時代/ New Waves in Hydrometry)の立ち上げ準備
- **小委員会名を「流量観測～」から「河川観測～」に変更**

グローバル適応研究小委員会報告

構成

委員長 中山恵介(神戸大学)
幹事長 小林健一郎(神戸大学)
顧問 中北英一(京都大学)
顧問 矢野真一郎(九州大学)
幹事 10名
委員 18名
オブザーバー 2名

R2年度の主な活動

- 中止, 2020年5月13日:「気候変動下での水災リスクと損害保険(仮題)」
- 8月17日:気候変動を考慮した研究連関図の作成開始と幹事による打ち合わせ(ビデオ会議)
- 9月7日:研究討論会「気候変動への備えとしての損害保険そして社会資本整備」開催(リアルタイムオンライン発信, **261名参加**)



河道管理研究小委員会報告

構成

委員長 田中規夫(埼玉大)、幹事長 戸田祐嗣(名古屋大)
委員 20名

R2年度の活動報告

- 第1回幹事会(2020.10.5) オンライン
R2年度の活動方針の議論
- 第1回小委員会(2020.10.28) オンライン
R2年度の活動方針:「河積管理(流下能力)」、「侵食・洗堀」の2テーマのWGを設置
各WGで「課題のサーチマップ」、「フィージビリティ・スタディの候補地」を議論
- 河道管理研究小委員会 主催 ワークショップ(2021.2.3)
会場 土木学会, 参加者数 54名

CommonMP開発・コンソーシアム

構成

委員長 山田正(中央大)

幹事長 風間聡(東北大)

技術部会長 立川康人(京都大)

母体:国土交通省 都市・地域整備局下水道部, 水土・保全局,
国総研, 土木学会, 建コン協, 上下水コン協



R1-2年度の主な活動

- 2019年4月3日 2019年度 第1回技術部会
- 2019年6月27日 2019年度 第2回技術部会
- 2019年7月4日 第10回CommonMP推進委員会・第20回幹事会
(合同開催):年間活動計画・方針の決定
- 11月18~22日 CommonMP研修会 国土交通大学校
- 2019年度中 第3,4回技術部会 第11回推進委員会
河川計画研修会(1月), 地整研修会(随時)

河川懇談会報告

構成

懇談会長 道奥康治(法政大)

部会員 12名

(うち5名が国交省河川技術評価委員を兼任)

R1-2年度の主な活動

- これまで懇談会プロパーの会合が実施されることはなかったが、河川技術評価委員会の組織改正を機会に、R1年度中に水工学委員会と国土交通省との連携体制を再構成する。
- 懇談会の内規整備や活動方針を協議する予定。
- **流域管理と地域計画の連携方策研究小委員会と連携。**

流域管理と地域計画の連携方策研究小委員会

第8回 流域管理と地域計画の連携に関するワークショップ

306名参加

日時: 令和2年12月9日(水) 14:00~16:00

場所: オンライン

内容: まちづくりや土地利用と連携した流域治水について

プログラム: 司会進行: 二瓶 泰雄(東京理科大)

開会

- 立川 康人(京都大学)
- 道奥 康治(法政大学、河川懇談会座長)

基調講演

- 矢野 真一郎(九州大学): 令和2年豪雨災害による被災の視点から見た流域治水(仮)話題提供(まちづくりや土地利用と連携した流域治水について)
- 国土交通省 水管理・国土保全局 河川計画調整室: 「流域治水」の取り組みの方向性
- 国土交通省 都市局都市計画課: 水災害対策とまちづくりの連携
- 国土交通省 水管理・国土保全局 河川計画調整室: 河川 砂防技術 開発公募制度の概要
- 田中 智大(京都大学): 水災害リスクカーブ推定手法の高度化と社会変化・気候変化適応策評価への適用(河川砂防技術研究開発公募研究)
- 川島 宏一(筑波大学): 避難遅れゼロを実現するための「みんなでタイムラインプロジェクト」自治体全域展開方策に関する研究(河川砂防技術研究開発公募研究)

総合討議 (まちづくりや土地利用と連携した流域治水について)

- コーディネータ: 田中 尚人(熊本大学)

まとめと閉会

令和二年度第1回海岸工学委員会報告 (担当 大阪大・入江)

6月22日14:00～16:30 オンライン開催

■ 議事録確認

■ 第67回 (本年度) 海岸工学講演会

日程：2020/11/11 (水) ～13 (金)

会場：じゅうろくプラサ,
岐阜大学サテライトキャンパス

→オンライン開催

5会場×3日間開催から3会場×4日間
開催に変更

■ 第68回 (次年度) 海岸工学講演会と 同時開催予定であったAPAC2021

→2023年に変更開催

→2021年岐阜, 2022関東, 2023京都

■ Coastal Engineering Journal

2018 IF : 2.016.

2019 IFの暫定予測 : 2.42

査読期間2ヶ月 → 1ヶ月に変更, 修正期
間も短縮して採択までの期間を短縮

■ 第56回 (高知) 水工学に関する夏期研 修会

次年度にそのままの態勢で延期

■ 研究小委員会等の活動について

2019の会議前なので3件について報告する

I IAPD-IAHRの動向

1) 22nd IAHR-APD Congress (2020, Sapporo, Japan)の準備状況

・北大・清水実行委員長による資料説明(内容:アブスト×切の延長、テーマ、レジストレーションの料金設定など)

2) 23rd IAHR-APD Congress (2022, インド)の準備状況

3) JHER: Prof. Sung-Uk Choi, co-editor-in-chief of JHER: スペシャルイシューの進捗状況、過去数年におけるIF、採択率などを説明した。

4) Distinguished member Award

5) IAHR-APDの実行委員(2021-22)の選挙

II 今後のIAHR会議予定

2021/7/4-9 第39回IAHR スペイン Granada

2023/8/21-25 第40回IAHR オーストリア ウィーン

III 水遺産スペシャルセッションとAwardについて

・2016年APD会議で、Prof. Hyoseop Woo, APD Chair, が「Historical Water Projects and Traditional Water Technologies in the Asia-Pacific Region」の重要性を強調。

・Awardもその時から次始まったが、インドネシア大会では表彰はなかった

◎推薦に向けた動き(2018以降)

・IAHR日本支部 理事、監事、顧問の方とWGを立ち上げることで了承を得た(2019/8/22-26)

水理公式集例題集編集小委員会

- ・ 赤松良久（山口大学）
- ・ 泉 典洋（北海道大学，委員長）
- ・ 入江政安（大阪大学）
- ・ 内田龍彦（広島大学）
- ・ 小原一哉（いであ）
- ・ 片山直哉（パソコン）
- ・ 佐山敬洋（京都大学）
- ・ 手計太一（富山県立大学，幹事）

★編集方針

- ・ 水理公式集掲載の公式をどう使うのかを理解するための例題集でありプログラム集
- ・ 昭和60年版例題集の発展版＋プログラム集
- ・ プログラム集はオープンソース，オープンデータを基本とし，GitHub等でコミュニティ(GitHubではOrganization)を作り公開・共有

水工オンラインWG

	氏名	所属
リーダー・委員	溝口 敦子	名城大学・東北大学災害科学国際研究所
委員	入江政安	大阪大学
委員	内田龍彦	広島大学
委員	佐山敬洋	京都大学防災研究所
	巖島 怜	東京工業大学
	岩崎理樹	北海道大学
	大槻順朗	山梨大学
	岡田輝久	電力中央研究所
	片岡智哉	愛媛大学
	後藤岳久	中央大学
	竹村吉晴	中央大学
	峠 嘉哉	東北大学
	橋本雅和	東北大学災害科学国際研究所
	丸谷靖幸	九州大学
	山田 真史	京都大学防災研究所
	小野村史穂	東京理科大学
委員長	清水 義彦	群馬大学
幹事長	二瓶泰雄	東京理科大学

水工学MLの運用改善

担当 梅田信(東北大), 川村里実(寒地土研)
大槻順朗(土研), 田井 明(九大)

水工学委員会メニュー

- 水工学委員会ホーム
- ▷ 水工学委員会について
- 部会・小委員会・懇談会など
- 水工学に関する夏期研修会
- 水シンポジウム
- お知らせ
- 水工学メーリングリスト
- 委員専用

水工学講演会WEBページ

- ▷ 水工学講演会のWEBページ

■ 水工学委員会のサイトに登録用リンクの作成

- 登録用フォーム(次ページ)から登録ができるように
 - ・加入は学会非会員でも可
 - ・属性(会員, 学生, 非会員)の入力あり

■ MLの活性化(特に学生の勧誘)が目的の一つ

- ご協力ください(研究室の学生, 職場の同僚, 若手に対して)

■ 管理運用体制の整理

- ・「利用運用規則」の作成
詳細は, 当該ページあるいはML配信(10月25日)から参照。

申請後、担当者がMLへの登録作業を完了するまでに時間がかかることもあることをご容赦ください。

水工学委員会メニュー

- [水工学委員会ホーム](#)
- ▷ [水工学委員会について](#)
- [部会・小委員会・懇談会など](#)
- [水工学に関する夏期研修会](#)
- [水シンポジウム](#)
- [お知らせ](#)
- [水工学メーリングリスト](#)
- [委員専用](#)

水工学講演会WEBページ

- ▷ [水工学講演会のWEBページ](#)
- ▷ [WEB PAGE for Conference on Hydraulic Engineering](#)

内規

- ▷ [水工学委員会内規](#)

論文集

- ▷ [水工学講演会論文集（水工学論文集）目次](#)

水工学委員会

土木学会 水工学委員会
Committee on Hydrosience and Hydraulic Engineering

[もっと読む](#)

水工学メーリングリスト登録のお願い

投稿者：重枝 未玲 投稿日時：土, 2019-10-26 14:02

水工学メーリングリストの登録ページを新たに作成しました。本メーリングリスト（ML）は、土木学会水工学委員会の活動に関する情報交換、各種行事の案内、および水工学全般に渡る情報の交換と共有を目的に運営されているメーリングリストです。水工学分野に興味関心を持っておられる方が利用できます。土木学会水工学委員会の活動に関する情報交換、各種行事の案内、および水工学全般に渡る情報の交換と共有を目的としております。是非ご登録下さい。このページから登録を行えます。なお、既に水工学メーリングリストに参加されている方（『hyd:00086』件名・・・）のようなメールを受け取られている方は引き続き利用できますので、新たな登録は必要ありません。

[新着・お知らせ](#)

[もっと読む](#)

第55回水工学に関する夏期研修会

投稿者：重枝 未玲 投稿日時：月, 2019-06-10 11:35

第55回水工学に関する夏期研修会

水工学の最新の研究成果や実務上の解決策の紹介を行い、海峯・津波の被害に河川にも与える技術者に情報を提供する非常に有益な研修会です。

水工学委員会活動の課題と反省

①縦のつながりの強化

・シニア研究者

水工学オンライン連続講演会

水工学講演会 通常セッションの司会

水工学講演会 特別講演(日野先生, 中川先生 司会 福岡先生, 辻本先生)

・若手研究者

②横のつながりの強化

・部会・小委員会では実施

河川部会, 流域管理と地域計画の連携方策研究小委員会等

・海外との交流

委員会活動に関わる自身の研究(1)環境水理部会

・「環境水理学」の教科書作成

販売数 2020年度224冊

1章	主査	二瓶 泰雄	東京理科大学 理工学部土木工学科
2章	主査	矢野 真一郎	九州大学 大学院工学研究院環境社会部門
		竹林 洋史	京都大学 防災研究所流域災害研究センター
		湯浅 岳史	パシフィックコンサルタンツ(株) 経営企画部
3章	主査	矢島 啓	鳥取大学 大学院工学研究科社会基盤工学専攻
		新谷 哲也	首都大学東京 都市環境学部都市基盤環境コース
		宮本 仁志	芝浦工業大学 工学部土木工学科
4章	主査	竹林 洋史	既出
		横山 勝英	首都大学東京 都市環境学部都市基盤環境コース
5章	主査	赤松 良久	山口大学 大学院理工学研究科社会建設工学専攻
		井芹 寧	西日本技術開発(株) 環境部
		井上 徹教	(独) 港湾空港技術研究所 海洋情報・津波研究領域海洋環境情報研究チーム
		今村 正裕	(一財) 電力中央研究所 企画グループ
		土屋 十圀	中央大学 理工学研究所・大学院都市環境学専攻・国際水環学分野
		二瓶 泰雄	既出
		宮本 仁志	既出
6章	主査	土屋 十圀	既出
		大石 哲也	(独) 土木研究所 水環境研究グループ自然共生研究センター
		櫻井 寿之	国土交通省 国土技術政策総合研究所 河川研究部 大規模河川構造物研究室
		角 哲也	京都大学 防災研究所水資源環境研究センター
		二瓶 泰雄	既出
		宮本 仁志	既出



所属は出版時のもの

委員会活動に関わる自身の研究(2)水害対策小委員会

土木学会水工学委員会水害調査WG

水害調査ガイドライン(案)

2016/6/22公開

★執筆者

東京理科大学	二瓶 泰雄(1章)
東京理科大学	永野 博之(2章)
東北大学	呉 修一(3章)
埼玉大学	八木澤 順治(4章)
東京理科大学	大槻 順朗(5章)

所属は当時のもの

目次

第1章	はじめに
第2章	洪水痕跡調査
第3章	家屋被害調査
第4章	堤防被害調査
第5章	数値データと画像データの結合方法

https://www.rs.noda.tus.ac.jp/hydrolab/guideline/FILES/guideline_v1.0_160622.pdf

委員会活動に関わる自身の研究(3) 流量観測高度化小委員会



- ・毎年4, 5月に合同の流量観測が開催(私自身は何も貢献しておりません).

- ・色々な新しい技術を見て, 勉強していました.

- ・初期から牽引し, ここまで大きく展開された藤田一郎先生(神戸大)や萬矢氏(土研Icharm), 現委員長・椿先生(名古屋大)に敬意を表します.

おわりに

- ・2019-2020年の委員会活動を無事に終え、次期執行部(立川委員長, 矢野幹事長, 溝口編集幹事長)にバトンタッチできます。
- ・2019-2020年の水工学委員会委員の皆様を含め、これまでの水工学委員会活動でお世話になった全ての皆さんに御礼申し上げます。